



TITLE:

統制經濟と保險

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 統制經濟と保險. 經濟論叢 1942, 54(5): 581-585

ISSUE DATE:

1942-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/131671>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟論叢

號五第 卷四十五第

月五年七十和昭

論叢

鎖國以後に於ける南方への關心……………經濟學博士 本庄榮治郎

佛印に於ける信用對策に就いて……………經濟學博士 松岡孝兒

新經濟論理……………經濟學博士 柴田敬

經濟生活の發達と經濟政策……………經濟學士 堀江保藏

研究

テュルゴの社會進歩の理論……………經濟學士 出口勇藏

ジュースミルヒの人口學觀……………經濟學士 青盛和雄

北支農業と灌漑……………經濟學士 山崎武雄

說苑

統制經濟と保險……………經濟學博士 小島昌太郎

稅制改革後の租稅統計……………經濟學博士 汐見三郎

附錄

彙報

説苑

統制經濟と保險

小島昌太郎

保險なるものは、吾々の經濟生活が、偶然なる事件によりて脅かされ、不安定なるものであるにより、これを安固ならしむる目的を以て考案せられて出來たものである。

吾々の經濟生活が不安定なるの原因は、偶然なる事件の發生にある。而も、偶然なる事件が發生することによりて、各人の經濟生活が不安定となるの事情は、これを吾々の經濟組織に於ける缺陷と認めなければならぬ。その缺陷を補ふために喚び起されたものが、すなはち保險なのである。

吾々の經濟組織は、交換の原則によつて支配せられ

統制經濟と保險

て居る。すなはち、人々が、他人のもてるものを獲得使用するには、その他人の承諾を必要とし、この承諾を得るがためには、原則として、そのものゝ要求する所の何等かのものを提供しなければならぬといふ點によつて、吾々の經濟生活は、支配せられて居るのである。

自由主義經濟に於ては、人間としての本能と智能とを別にしては、主として支配して居るものは、この交換の原則である。それゆゑに、各人の生活は、各自の責任の下に營まれ、縱ひ偶然なる事件に遭遇して、生活上に困窮することがあつても、原則として、他に依頼すべき何物もないのである。これが、この經濟組織に於ける缺陷である。こゝに於て、同一の狀況の下にあつて、同一の事件に遭遇する可能ある多數の人々がやはり、交換の原則に従ひ、各々贖出をなして、共通準備財産を作成して、この事件に處するの仕組を作るに至つた。それが、すなはち、保險である。ゆゑに保險は、この交換の原則によつて秩序付けられて居る所

の經濟組織に於ける組織的缺陷を補ふものであつて、それが保險なるものゝ本質的職能である。

二

自由主義經濟にあつては、吾々の物的生活を支配するものは、前に述べたる如く、主として、交換の原則である。この原則は、むしろ、自然發生的に人類の物的生活を秩序付けるに至つたもので、これによつて、各人の生活は、分業と交換とにより、有機的に相互關係の組織を構成することゝなつたのである。然るに、統制經濟に於ては、國家の指導意思が、更に、國民の物的生活を秩序付けることゝなつた。

統制經濟といふは、政府が、一定の國家目的のために、生産、配給、消費及び價格に對して、法規を以て規制を行ふ所の構造をもつ經濟である。この場合に於て、この經濟構造は、尙ほ、分業と交換との機構の上に成り立つて居る。ゆゑに、交換の原則が、物的生活を秩序付ける作用に於て働いて居ることは、自由主義經濟の場合と異なる所はない。併しながら、それは次の

三つの面に於て、自由主義經濟とは異なる性格をもつ。

その一は、國民經濟の諸活動が、政府によつて規制せられるといふことである。すなはち、それは、各人の自由の行動を以て行はれる經濟ではなく、法律命令によつて、規定せられたる行動を以て行はれる經濟である。従つて、この場合は、經濟と政治とは、單に、間接に相影響し合ふといふやうな關係ではなく、政治が經濟を指導するのである。經濟の諸法則は、政治上の指導に於ける型と方向とに従つて行はれるものとなる。統制經濟の典型的なるものに於ては、生産も、配給も、消費も、價格も、すべて、あらゆる經濟活動が法律命令の規定の下に行はれる姿となつて構想せられる。併し現實の統制經濟にあつては、その國民的理想と、その保有の資源の種類並びにその存在量及びその國の生産力の状態とによりて、もとより、この典型的な姿のものは、多かれ、少かれ、相當の距離をもつものである。

その二は、統制經濟に於ける政府の規制は、生産、

配給、消費、價格の四者に互つて、行はれることである。この四者の全部に對して、政府の規制が行はれなくとも、その中の一つに對してでも、これが行はれるならば、その面に於て、やはりそこに經濟の統制といふことがある。

併し、統制經濟といふことゝ、經濟の統制といふことは、必ずしも同じことではない。統制經濟に於ては國家目的といふやうな根本的なものゝ具體的表現として、經濟を統制する目的が浮び出て居るのであるが、單に經濟の統制といふやうな場合には、國民生活に對する單なる倫理的訓政の目的か、生活便宜の目的より行はれるにすぎないのである。例へば、風紀また衛生上、一定商品の製造、販賣、運搬、保有を禁止するが如き、また製品の規格を定めるが如きはこれである。併しながら、生産、配給、消費、價格の四者のいづれに對しても、政府の規制が行はれ、而も、この四者の規制が相互に關聯的に有機的に行はるゝことゝなればそれは計畫經濟といはるべきものとなる。例へば、單

に、製産量を定めるとか、または最高價格を指定するといふことだけでも、これをその面に於ける統制經濟と認め得るのであるけれども。未だ、これを計畫經濟といふことは出来ない。併しながら、石炭、鐵礦の生産額を定めると共に、これに基きて、各種鐵製品の生産量と割合とを定め、且つその生産部門へと消費部門へと割合を定めるが如き、または、勞賃、動力、原料、材料等の價格を規定すると同時に、それを基準として、製品の價格を定め、更に運賃、保險料、倉庫料、荷造費、その他諸掛を考慮に入れて、小賣價格を定めるときは、既にそれは計畫經濟の性格を帶ぶるに至つた所の統制經濟である。

その三は、統制經濟なるものは、必ず一つの現實的な具體的な目的をもつことである。その目的のために國民經濟が統制せられるのである。

元來、統制經濟を實現するといふことは、一つの根本的な目的が定まつて居て、その目的を以て、國家がその國民經濟に臨む所の行政的立場の現はれであると

見ることが出来る。従つて、統制經濟それ自體が、一つの根本的經濟政策であると言つてもよい。この立場の下に、或はこの根本政策に従つて、國家のすべての具體的な經濟政策が決定せられるのである。それゆゑに、統制經濟に於ては、常に、すべての個々の經濟政策の實行に當るものが、その統制の目的を、現實的に具體的に、確固として、把握して居ることが肝要である。そして、すべての經濟政策は、この目的の達成に向つて、綜合的融合的に構成せられて居ることを要し且つ相互密接に關聯して實施せられなければならぬのである。

然らば、統制經濟の目的たるものは何であるか？

それは時代により、環境により、また國民的理想によつて異なる。今日の我國に於ける當面の問題としてこれを言へば、申すまでもなく、第一段階は、大東亞戰爭に勝つて抜くためであり、第二段階に於ては大東亞共榮圈を建設するためであり、第三段階は、かくて建設されたる大東亞共榮圈の健全なる發達をなすためである。第一段階と第二段階とは、戰時統制經濟であり、第三段階は、大東亞共榮圈の指導國家としての主動的

統制經濟である。この各段階に於ける目的と、この目的を達成するに效果ある手段の何たるかを、確實に把握しなければ、我が國の今日の統制經濟は認識することも出来ず、實現することも出来ない。

三

統制經濟は、右に述ぶるが如く、尙ほ、分業と交換との機構の上に成り立つて居るのであり、そこには、依然として、交換の原則が働いて居る。もし、この統制經濟なるものに於て、交換の原則が働かない組織に轉化するに至れば、それは既に、統制經濟といはるべき域を退出して、全く質的に異なる所の經濟構造となつたものと言はなければならぬ。

統制經濟に於ては、尙ほ、交換の原則が支配的な地位に於て行はれて居る。それゆゑに、統制經濟の下に於ても、やはり、各人の經濟生活は貨幣の收支を中心として営まれるのであり、偶然なる事件によりて、この所得が減減せられ、または支出が増昂して收支の均衡が破られるの可能性がある、従つて、不安定なるを免れ得ないのである。統制經濟そのものは、交換の原則が行はるゝ經濟構造に於ける、この組織的缺陷を除くするものではないからである。ゆゑに、保險なるも

のを必要とすることに於ては、依然として何等の變りもない。いな、更に、統制經濟の指導擔任者たる國家は、益々保險なるものゝもつ本質的機能を利用して、この組織的缺陷を補ふことに於て、その責任を加へるものと言はなければならぬ。

元來、統制經濟の下に於ては、各人、各企業、各産業は、それぞれ、自立獨存のものではなく、國家經濟といふ一つの有機的組織體に隸屬して、意識的に、その全構成に於ける分擔的職能をもつ所の要素として存在する所のものである。自由主義經濟に於ても、各人各企業、各産業はもとより、相互に有機的關聯に於て存在した。併しながら、それは、自然發生的であつてその關聯は、意識的に造られたものではなかつた。然るに、統制經濟に於ては、それらは、或る具體的な現實の目的のために、意識的に、それぞれの職能に應じて、有機的關聯に於て、全體への一つとして、編成せられるのである。齊しく、有機的關聯といつても、前者にあつては、靜態的であり、後者にあつては、動態的である。保險も亦、統制經濟の下にあつては、それが一つの産業としても、またはこれに携はる所の各々の企業としても、更には、これに加入する所の各人、

各企業のいづれもがみな、この意義に於ける全體統合體としての國家經濟といふ一組織の中に、意識的に編成せられ込まれたのである。従つて、保險そのものゝ意義も、保險といふ一つの産業の存在も、また保險企業の職能も、保險加入者の關係も、亦、自らこの視角より觀察せられなければならぬ。

かくて、統制經濟の下に於ては、各人も、各企業も單に、それ自らの經濟の不安を除去するといふ意味からばかりではなく、それ自らの經濟の不安は、とりも直さず、全體的な關聯に於ける他の人々、他の諸企業の經濟の不安を惹き起し、それらの計畫的經營の齟齬の原因となり、惹いては、統制經濟の目的とする所のものゝ達成に支障を來すことゝもなる可能性があるのであるから、かくの如きことなからしむるために、保險なるものが益々必要となるのである。かくて、保險の重要義は、私經濟的觀點よりも、統制經濟の下に於ては、むしろ、國家經濟的觀點より、益々多く認められることゝなつたのである。それゆゑに、統制經濟にありては、國家が、直接若しくは間接に、保險の擔當者として、國家機能に於てこれを行ふことゝなるのである。